

「続けること」を意識して取り組む
特定非営利活動法人京都・地球みらい機構 モナト久美子さん

まずは「知ってもらう」こと。そして、「続けること」を意識して、自分たちの思いを整理して持っておくことが「地域との連携」で大切なことだと思います！（モナト久美子さん）



特定非営利活動法人京都・地球みらい機構は、地域資源のイノベーションによる“事業創造型NPO”を目指し、地域における継続的な成長と管理や、新たなビジネスモデルの構築及び支援、地域資産や知財を介した地域交流、更に国際交流をテーマに活動されています。

今回は、その取組の1つである「下京区西部エリアの活性化」での地域連携に関する事業について、お話を伺ってきました。

■下京区西部エリアの活性化について教えてください。

まず、私たちは直接、地域の自治会や団体に直接アプローチしたわけではなく、京都市主催の「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」にNPOとして参加し、ワークショップやまちあるきの運営に協力するという関係からスタートしました。

この検討会議は、変貌しつつある当該地区の課題を共有し、活性化の方向性や活動アイデアを共に検討する目的で平成24年度に設置され、関係する団体や企業、地元の自治会の方々が集まり、現在に至っています。“下京区西部エリア”のおおよその範囲は、南北は五条通から八条通、東西は七本松通から烏丸通に囲まれた地域です。

■どういったかたちで、地域の方と関係を築いていきましたか？

西部エリアの検討会議を通して、下京区役所の地域力推進室の皆さんと親しく意見交換をするようになり、私共から「東西両本願寺門前町の皆さんと交流する機会をつくって頂きたい」と企画提案をいたしました。そして、その提案に賛同いただいた地域の方々が参加して交流会／勉強会を開くことになりましたが、下京区役所の方々の調整と支援がなければNPO単独では実現することは出来なかったと思います。

この交流会では、地域の取組や活動の具体的な内容を伺いながら、地域としてやりたいことや困っておられること等の情報交換を行い、少しずつ“顔の見える関係”を作っていました。「地域を知っている人や、地域に入り取り組んでいる人、そこから離れない人達を支援するカタチで橋渡しをして事業にしてい」ことが、私たち NPO のスキルを生かせる仕組みだと思っています。



■東西両本願寺門前町の皆さんとの勉強会の内容とは？

私共は、“地域が地域を活性化させるとはどういうことか”ということを中心に、国内外の他地域での取組事例や京都での先進事例等を紹介させて頂き、「一緒に活動をしていきましょう」という地域の機運を盛り上げるお手伝いをさせて頂きました。

勉強会の一環として、「東西門前町まちそだてフォーラム」を龍谷ミュージアムさんの御協力で開催し、市内の他地区 NPO の皆さんにも活動内容を紹介して頂く場を提供させて頂きました。当日は「京都の文化を映像で記録する会」という太秦の NPO の制作による映画も上映し、また門前町にゆかりのあるキャラクターも勢ぞろいしましたよ（笑）。



■勉強会后、どういった取組に繋がっていますか？

下京区ふれあい事業実行委員会主催の取組として、「藪内家における茶の湯体験及び見学」を企画しました。同企画は100名の募集に対し300名以上のお申込みがある人気企画となり大成功しました。今後の展開としては、地域内の他の文化拠点に協力を頂いて、「茶の湯体験」を継続できればと考えています。

NPOにとって、同事業は資金的なメリットはありませんでしたが、このような取組により地域の皆さんの信頼を得られたり、こういう活動をやるNPOであると認知して頂く事が次のステップにつながると考えています。

■最後に地域との連携についてアドバイスはありますか？

私たちが気をつけていることは、「NPOとして自分たちが目指している方向性から“ぶれない”」ということです。それが、連携を続けていくための初めの一歩になると思います。事業を選択する中で、補助金をもらえると何かができるからというのは、得てして早く終わってしまう。「続けること」を意識し、最初の仕組みや思いを整理して持っておくことが大切だと思います。

また、自分たちの取組を知ってもらうことを意識したら、より良くなると感じました。知ってもらうことも大事です。どなたかと一緒じゃないとできない、また、連携のパートナーを見極めることも大切です。